

今回の通信では、今年度の全国学力・学習状況調査の結果と今後の取組についてお知らせします。

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

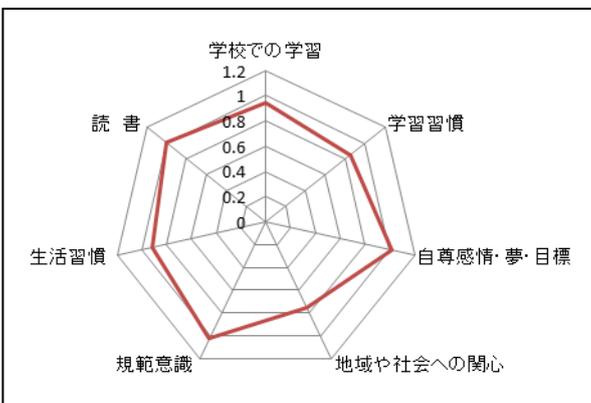
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

## 1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	全体的には全国平均正答率を上回っていた。中でも昨年度は全国平均正答率を下回っていた「書くこと」「読むこと」の領域で全国平均正答率を上回ることができ、取組の成果が表れている。しかし、「話すこと・聞くこと」の領域においては、課題が見られる。	全国平均正答率を上回っている。
国語B	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」すべての領域で全国平均正答率を上回ることができた。中でも「書くこと」「読むこと」の領域においては、昨年度よりかなりの改善が見られた。	全国平均正答率を上回っている。
算数A	全体的には全国平均正答率を下回っていたが、「数と計算」「図形」「数量関係」の領域においては、全国平均正答率にかなり近づいたり、やや上回ったりしている領域もあった。しかし、「量と測定」の領域においては、課題が見られ、重さや長さ、面積などの問題に数多く取り組ませていく必要がある。	全国平均正答率を下回っている。
算数B	全体的には全国平均正答率を上回っていた。どの領域においても全国平均正答率を上回るか、下回っていても昨年度よりもその差は縮まってきている。中でも「数と計算」「数量関係」の領域でかなりの改善が見られた。	全国平均正答率を上回っている。

## 2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



### 【質問紙調査の結果分析】

- ・学校での学習活動においては、授業の中でめあてとふり返りの活動は徹底されてきている。今後は、児童の自主的な活動や、書く活動、話し合う活動をさらに充実していく必要がある。
- ・家庭での学習習慣においては、宿題をしている割合は100%に近いが、自分で計画を立てて学習する割合や、平日の家庭学習の時間は、依然として全国平均よりも低い傾向にある。
- ・生活習慣においては、やはりゲームをする時間に課題が見られる。特に最近はスマートフォンを使ったゲームをする割合が増加傾向にある。
- ・自分にはよいところがあると感じている児童の割合は、全国平均を上回っており、学校での様々な行事や活動を通して成就感や達成感を味わうことで自信につながっていると考える。
- ・地域の行事に参加している割合は全国平均よりもかなり低く、今後は、学校と地域が一体となって地域や社会への関心を高めていく必要がある。
- ・読書習慣は、昨年同様しっかり定着してきている。

## 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

### ① 教科に関する取組 (全校で・学年で・学級で)

- ・学年ごとに児童の課題や身に付けさせたい力を明らかにし、学力向上のための学年プランを作成する。その学年プランに沿って日々の授業実践に取り組む。また、授業研究では授業改善シートを活用したり、学力向上推進教員と連携を図ったりしながら授業の質の向上に努める。
- ・朝の活動の時間(ドリルタイム、読書タイム、音読暗唱など)を全校一斉に実施し、その定着を図る。
- ・アシストシートや過去問題を長期休業日中だけでなく、朝の活動や宿題でも活用する。
- ・校時割を変更し、毎週火曜日と金曜日の放課後に補充・補習の時間に取り組む。

### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭学習の時間だけでなく、その取り組み方についても家庭学習チャレンジハンドブックなどを活動して指導していくとともに、「学力・体力向上だより」を毎月発行し、家庭学習の大切さを保護者へも啓発していく。
- ・PTAと連携し、家庭読書の日、ノーテレビ・ノーゲームデーの実施や、携帯電話やスマートフォンの使い方や使用時間について積極的に啓発を行う。
- ・中学校区で家庭学習や生活習慣等についての情報交換を行い、中学校区における統一のスタンダード(高中生校区 児童・生徒のきまり10か条)を作成する。